



# はわり

## 第57号

令和5年11月1日

発行／倉敷市水島中学校区人権学習推進委員会 事務局／倉敷市水島公民館 倉敷市水島北幸町1-2 Tel.086-444-2541



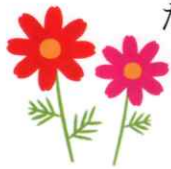
### 6月10日(土) 水島中学校区人権学習推進委員会総会 中学校区のテーマ「さがそうよ みんなの心を つなぐかぎ」

今年度は、所属団体での役員交代や人事異動等により、推進委員九名、事務局員六名が交代しました。

六月十日(土)、推進委員、事務局員合わせて三十名、市教委から二名が出席して総会が行われました。事業計画や予算案についての審議だけでなく、コロナ禍前のようにミニ研修を行い、「環境」について考えました。

重点目標は昨年度に引き続き「子ども・高齢者の人権、地域や先人に学ぶ」に決まりました。また、推進委員が積極的に事業に参加するだけでなく、周りの方に声掛けをして一緒に活動へ参加したり、学んだことを地域や職場へ広げたりしようということも確認しました。

「誰もが幸せに生きられる水島をつくる」の精神を大切にし、よりよい地域づくりにつながる事業を推進していきくなりたいです。



### 8月26日(土) 【人権課題：外国人】ふれあい・交流活動「外国文化に触れ合おう」

#### ～触れ、学び、体験する フィリピンの料理と文化～



ハラダ・ハンナレイ氏(右)  
ハラダ・エリザベット氏

外国人を講師に招いての交流会は、水島中学校区人権学習推進委員会の発足当初から取り組んでいる事業で特に大切にしてきました。

今回は、人権学習推進委員や地域の方、水島中学校の生徒計十八名が参加し、和やかな雰囲気の中で交流ができました。フィリピンの家庭料理「アドボ」「トウロン」の料理体験の後は、フィリピンの文化についても教えてもらいました。



外国人を講師に招いての交流会は、水島中学校区人権学習推進委員会の発足当初から取り組んでいる事業で特に大切にしてきました。

#### 参加者の感想

★は中学生の感想

♡フィリピンの文化についてのスライドはとても勉強になりました。日本から四時間で行けるフィリピンがさらに身近に感じられた今日でした。

♡若い先生で、親しみやすい言葉で教えてくださいました。

また、中学生の方も参加され、会場全体が生き生きして、楽しい時間を過ごすことができました。

★フィリピンって有名だけれど、具体的に何が有名なのかは知らなかったです。料理のやり方も違って難しかったけれど、貴重な体験ができてよかったです。

★フィリピン料理をつくって食べるという機会はなかなかないので、よい経験になりました。フィリピンには島がたくさんあって、文化や言語が全然違うと聞き、驚きました。

### ◆令和5年度 水島中学校区人権学習推進委員・事務局員◆

○は新任

- |    |        |    |       |     |       |      |       |       |       |      |       |       |      |       |       |       |       |      |       |       |       |      |       |      |       |       |       |      |       |       |       |       |       |       |      |       |      |       |      |       |      |        |      |       |      |       |      |      |      |       |      |       |
|----|--------|----|-------|-----|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|--------|------|-------|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|
| 会長 | 遠部 壽美江 | 顧問 | 難波 弘毅 | 副会長 | 武中 英治 | 岡 浩二 | 大藤 勝彦 | 平松 智子 | 星尾 恵子 | 丹谷 豊 | 田中美代子 | 森田奈津子 | 原 郁美 | 野呂 家徳 | 水城 弘之 | 三島 誠一 | 矢延 真里 | 秦 剛二 | 服部 詳治 | 山本 未雪 | 百田 京子 | 大森 修 | 神原 彰元 | 土倉 功 | 林 知佐子 | 佐守 美雪 | 新納 雅司 | 藤井 剛 | 村上 英男 | 田中 啓嗣 | 高橋智恵子 | 鳥越龍太郎 | 橋本 正広 | 甲斐 政徳 | 事務局員 | 平松 定義 | 事務局員 | 石井 陽子 | 事務局員 | 奥田 浩二 | 事務局員 | 佐々木麻由美 | 事務局員 | 堂前笑美子 | 事務局員 | 田淵 好美 | 事務局員 | 西 善久 | 事務局員 | 福永 千明 | 事務局員 | 有西 陽路 |
|----|--------|----|-------|-----|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|--------|------|-------|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|



7月19日  
[水]

【人権課題：様々な人権】

◆人生を豊かにするところ学 第1回

「口下手な公務員が『落語家』になるまでの挑戦記  
～人間は何歳からでも挑戦できる～」

倉敷市職員・落語家 牧野 浩樹(ジャンボ亭小なん)氏

大学時代、そして社会人になった頃の失敗経験とその克服の過程について話していただきました。「失敗はいつか笑いに換えられる」「幸せは自分の心が決める」というポジティブに考えることで、人への接し方が変わっていったということでした。

牧野氏のお話には、一人ひとりが大切にされる地域社会をつくるためのヒントがたくさん含まれていたように思います。



参加者の感想

- ♡私78歳。まだ何かをしたい。これで自分の人生は終わりとは考えないで、前を向いて行かなくてはと思いました。
- ♡「失敗は笑いに換えられる」という言葉に元気をいただきました。私もいろいろなことに挑戦していきたいです。
- ♡幸せは自分の心のもちようだということを教わり、勇気をもっていろいろなことに挑戦するという元気をいただきました。ありがとうございました。

9月9日  
[土]

【人権課題：障がいのある人】

◆人生を豊かにするところ学 第2回

「西日本豪雨の被災地で感じた本当の福祉  
～心のバリアフリーの原点：母と隣の浜田さんとの友情から～」

聴覚障がい当事者 梅岡 光恵氏

西日本豪雨災害でボランティア活動に参加した体験談を聞き、参加者が「本当の福祉とは何か」について改めて考える機会になりました。

また、梅岡氏の前向きな生き方には、お母様の厳しい子育て方針の背景にある愛情が大きく影響しているように感じられました。



「健常者・障がい者に限らず、誰にでも得意なこと・不得意なことがあり、互いに手を差し伸べ合うことにより『本当の福祉』が生まれる」という言葉は、すべての人が暮らしやすい地域社会をつくるための神髄を表していると思います。



手話通訳者と梅岡氏

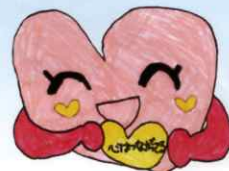
参加者の感想

- ♡聴覚障がいがあっても明るく前向きに生きておられる姿に元気がもらえました。手話を教えていただいたので、勇気はありますが使ってみようと思います。
- ♡梅岡さんの話を聞いて、自分にできることを、勇気を出して行動へと移していこうと思えました。また、「本当の福祉」ということを考えさせられました。
- ♡本当の福祉について、すべてのお話が心にしみました。一人ひとり違っていい、その一人ひとりができることをつなげていけばいいと、心強く思いました。

人権標語  
ポスター



皆さんの素晴らしい作品は  
観る人々の心を癒すことで  
しょう。



水島中学校



水島中・3年  
谷川 遥人



水島中・2年  
伊原 慶一郎

水島中・3年 中島 菜月

「楽しんで  
いろいろな色の  
花が咲く」  
\*\*\* (三) \*\*\* (中島 菜月)

水島中・3年 石山 由菜

やめようよ  
聞えないふり  
見ないふり  
\*\*\* (三) \*\*\* (石山 由菜)

水島中・2年 三島 栄斗

さへろより  
包むことは  
話そうよ  
\*\*\* (二) \*\*\* (三島 栄斗)

水島中・1年 山口 章正

気をつけて  
いまの言葉は  
悪口だ  
\*\*\* (一) \*\*\* (山口 章正)

水島中・1年 早川 映月

軽いけど  
重たいかもよ  
その言葉  
\*\*\* (二) \*\*\* (早川 映月)

水島中・2年 中原 陸翔

メッセージ  
送ってみる前  
考えて  
\*\*\* (二) \*\*\* (中原 陸翔)



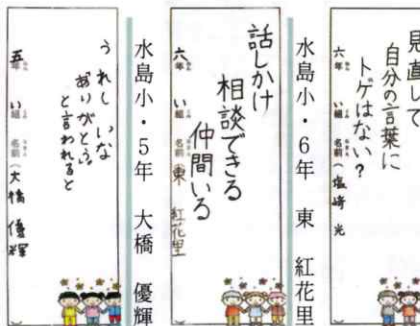
# 水島小学校



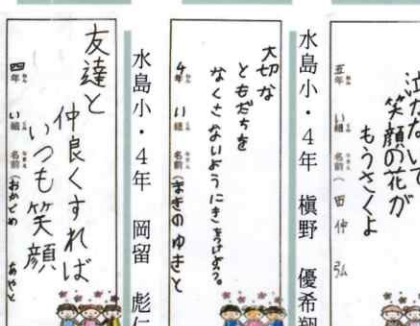
水島小・6年  
小田 遥翔



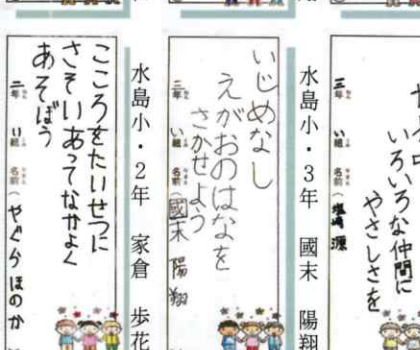
水島小・5年  
大西 良奈



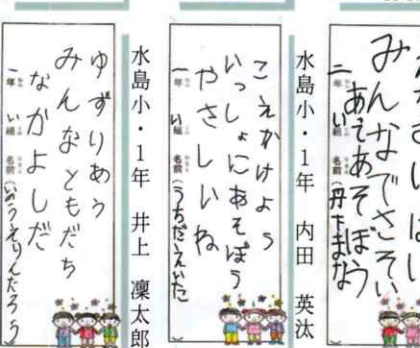
水島小・6年 塩崎 光  
水島小・6年 東 紅花里  
水島小・5年 大橋 優輝



水島小・5年 田仲 弘  
水島小・4年 横野 優希翔  
水島小・4年 岡留 彪仁



水島小・3年 塩崎 源  
水島小・3年 國末 陽翔  
水島小・2年 家倉 歩花



水島小・2年 丹下 愛菜  
水島小・1年 内田 英汰  
水島小・1年 井上 凜太郎

# 第四福田小学校



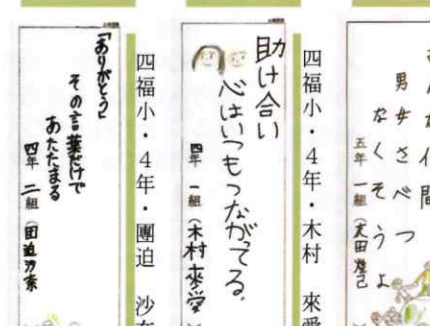
四福小・6年  
大形 莉子



四福小・2年  
朝倉 悠稀



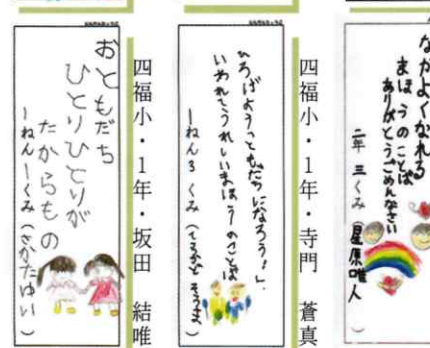
四福小・6年・川上 真央  
四福小・5年・岩中 茉緒  
四福小・6年・家近 心奈多



四福小・5年・友田 煌己  
四福小・4年・木村 來愛  
四福小・4年・團迫 沙奈



四福小・3年・山本 航大  
四福小・3年・二宮 夢月  
四福小・3年・末吉 華



四福小・2年・星原 唯人  
四福小・1年・寺門 蒼真  
四福小・1年・坂田 結唯

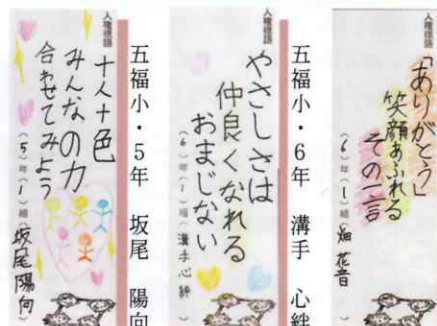
# 第五福田小学校



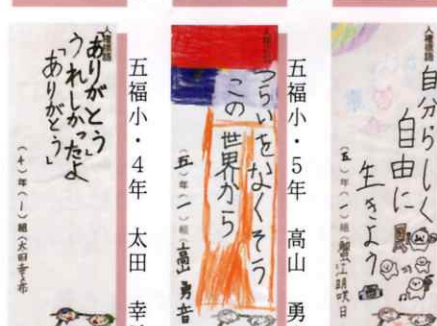
五福小・3年  
鳥飼 友紀恵



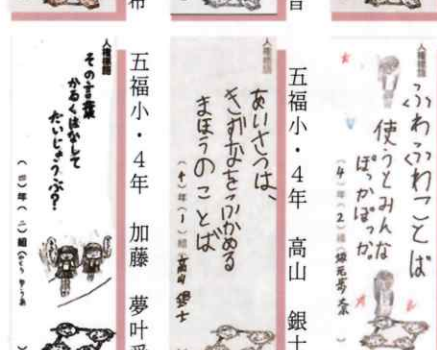
五福小・2年  
蛭原 華衣美



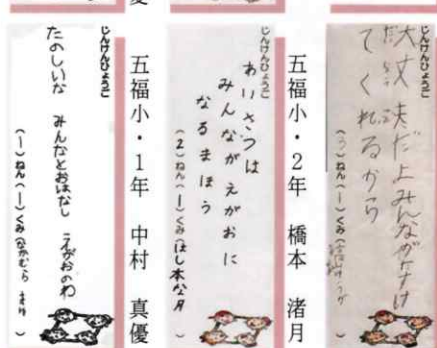
五福小・6年 畑 花音  
五福小・6年 溝手 心絆  
五福小・5年 坂尾 陽向



五福小・5年 蟹江 明映日  
五福小・5年 高山 勇音  
五福小・4年 太田 幸希



五福小・4年 坂元 歩奈  
五福小・4年 高山 銀士  
五福小・4年 加藤 夢叶愛



五福小・3年 高山 祐輝  
五福小・2年 橋本 渚月  
五福小・1年 中村 真優



## ◆倉敷市立水島中学校

### 「自分も他人も大切に ～幸せになれる生き方のヒント～」



本校では6月3日(土)にPTA人権教育講演会を行いました。講師に岡山コミュニケーション研修講演企画代表の稲田尚久先生をお迎えして、「自分も他人も大切に～幸せになれる生き方のヒント～」という演題で、講演をしていただきました。怒りの感情の正体やメカニズム、衝動のコントロールの仕方について具体的な事例をもとにわかりやすく話していただきました。稲田先生の巧みな話術もあって、生徒たちも聞きやすく、大変盛り上がった講演会となりました。

生徒の感想の中には「怒りをためるんじゃなくて、怒りを出していいと言ってきて、私はなぜかほっとしました」という、自分の気持ちを振り返るものがありました。他には「6秒待って、イライラをおさえたり、これは怒ってもいいのか怒らなくてもいいのかの区別をしようと思いました」や「思考のコントロールで『まあ許せるゾーン』を広げて広い心もちたいです」のように今後の自己コントロールに生かそうとするものもありました。また、「自分の理想の『べき』と他人の理想の『べき』は全然違うんだなと思いました」のように価値観の違いについて新たな発見をしている生徒もいました。中には1月の公民館で行われた研修会に参加した生徒もおり、「友だちと一緒に聞くことで新たな発見があった」という感想もありました。

今回の講演会をきっかけにして、怒りの感情をコントロールして、自分も相手も幸せになれるようなコミュニケーションの力を身に付けていってほしいと思います。



## LGBTを認める

水島中学校3年 富山 輝

近年、「LGBT」という言葉をよく聞くようになった。私も実際に同性の友達から「輝のこと好きだったことはあったよ」と言われた経験がある。驚きはしたが、どうして私のことを好きになったのかという疑問が大半を占めていたと思う。

私の知り合いの中にも心と体の性の不一致、いわゆるトランスジェンダーと呼ばれる方や、同性同士で付き合っているという方もいる。私は同性愛やその当事者に対して共感できることもあるし、特別何かを思うわけではない。しかし、世の中にはLGBTに対し「気持ち悪い」「普通じゃない」というような差別的な意見をもつ人も少なからずいる。そして、その言葉に苦しんでいる人がいる。

LGBTがなぜ差別されるのか私にはわからない。当事者の方の気持ちもわかるわけではないが、私たちとあまり変わらないような気がする。好きな人を好きになり、生きたいように生きようとしている。自分たちにとっての当たり前前の生活を望んでいるだけのように思える。私はすべての人に自由に生きる権利があると思う。しかし、今はまだその権利は平等ではないように感じる。当事者たちは私たちと同じことを願っているだけなのに、性的少数者だからという理由でそれを難しくしているのが今の社会なのだろう。

「普通」に生きようとしている人間を「普通ではない」と言って生きにくくしている。少数のそういった意見を聞き、差別の対象になることを恐れて周りに言い出せないでいる人はきっと沢山いるのだろう。もしかしたら身近にも「友達には知られたくない」と隠している人がいるかもしれない。周りの人の言葉や意見により言い出せなくなっている人がいるかもしれない。

「普通」とはいつだれが決めたものなのか。誰かが決めてもいいものなのか。そもそも基準はあるのか。それ以前に彼らの考えは誰にも迷惑をかけていないのだから、誰かを好きになることや自分らしくしようすることに「普通」なんて言葉は必要ないのかもしれない。「普通」という固定概念にとらわれてしまうと、社会は人を選別するようになる。それは決してあってはならないことなのだと気づいてほしい。

私はわからないことはわからないままでもいいと思う。しかし、当事者のことを知り、受け止め、気持ちを考えることはできるのではないだろうか。納得いかないことや理解できない部分もあるかもしれない。でも無理に理解する必要はないと思う。違う人間なのだから仕方がないと割り切ってしまえば簡単に彼らを認めるくらいのことはできるだろう。彼らに対して「そういった考えをもち、そこに存在している」と感じるだけでいい。私は、彼らの存在を少しでも多くの人が認めるだけで社会は変わっていくと思う。

現在認められつつある「LGBT」の方々、今もまだ差別に苦しんでいる。しかし、難しいものや理不尽なものであふれているこの社会の中で彼らは行動を起こしている。彼らはただ「普通」に生きることを望んでいるだけなのだ。考えていることや思っていることをすべて理解しろと言っているわけではない。だからこそ私たちはできることをしていかなくてはならない。彼らの存在を認めるだけでもいい。彼らの訴えを受け止めるだけでもいい。そして、もしLGBTの方を身近なものだと感じる事ができたのならそれでいいと思う。すべての人が生きやすい社会を目指すためには、当事者ではない人たちの理解が必要になっていくだろう。この作文を書いていくうちに、少しでも多くの人が彼らを認め、誰にとっても幸せな生活を送れる社会になってほしいと強く思った。

私自身もこれからの社会を支えていく一人の人間として、彼らの考えを受け止め、そしてLGBTの方を認め、向き合っていくと思う。

## ◆倉敷市立第五福田小学校



### 『ありがとう』で溢れる五福小に



本校では6月に校内人権週間を実施しました。人権ポスターや人権標語を作成することで、子どもたち自身が人権について身近に考えられるようになり、「友達と仲良く過ごすためにはどんなことが大切?」「自分も周りの人も大切にすることってどういうことだろう?」、一人ひとりが人権と向き合うきっかけになりました。

また、「なかよしの花をさかせよう」と題し、友達の良いところや、ありがとうの気持ちをメッセージカードに書いて伝える活動も行いました。「いっしょにあそぼってさそったら、いつもすぐに『いいよ』って言ってくれてありがとう」「いつも笑顔で優しく話ができていいね」「いつもみんなのために配りものをしてくれてありがとう」など、温かい言葉が学校中に溢れました。花びらの形をしたメッセージカードは、学級ごとに集めてなかよしの花として掲示しました。大きななかよしの花に書かれたメッセージを読みながら、嬉しそうな表情を浮かべる子どもたちの姿がたくさん見られました。

なかよしの花は学級間の友達同士で交換し合うものですが、今年度はその活動に加えて「親切カード」という、学年の垣根を越えて『ありがとう』のメッセージを伝え合う活動も行いました。異学年の友達のよいところをたくさん見つけてカードに書き、その友達の教室のポストまで届けに行くという活動です。「クラスも学年も違うから普段は照れくさくて言えないけど…」という子どもたちも、この活動には意欲的に取り組み、嬉しそうにカードを届けに行く姿が見られました。

人権週間の期間だけに限らず、今後も『ありがとう』が素直に言えるやさしさを溢れる五福小を目指していきたいと思っています。

